

紙器・印刷版

新生紙パルプ商事と協業 卵殻含有の板紙開発

サムライトレーディング
 (株)サムライトレーディング(櫻井裕也社長、埼玉県桶川市)は、廃棄される卵殻をパルプの代替として一部含有した紙、板紙を開発した。食品会社の同社、大量に発生する卵殻の有効利用を以前から考えていたという。実用化に当たっては、新生紙パルプ商事(株)と協業し、紙器用板紙などで普及を図っており、将来的な段ボール原紙の生産も視野に入れる。なお、高い環境性などが評価されて、先頃発表された、埼玉県による「第9回渋沢栄一ビジネス大賞」で大賞を受賞した。



櫻井社長(右)とSPP花輪部長

同社は多くの外食チェーンにデザートを中心に日々大量の食品を提供している。卵の使用量は膨大で、それに比例し廃棄する卵殻も多く排出される。通常、卵殻は産業廃棄物として焼却処分されるが、櫻井社長は、「お金を払ってCO2を排出しているに等しい。肥料として再利用していたが、とても使い切れない。まずはバイオプラスチックに利用した。ただ、脱プラの動きがある中、生分解プラもしくは紙製品への代替も進んでいる。」

その紙も環境性も含めて、可能な限りパルプ使用量を減らすことが望ましいと思われ、卵殻を含有させようと考えたと開発の理由を話す。割卵業者に、卵殻を乾燥、細かく粉砕する独自の装置を設置してもらい、その場で資源化。これをパルプの代替として、紙に10〜50%含有する。「産廃処分費用が不要となり、(焼却時およびプラ使用減に伴う)CO2排出減にも貢献できる」と櫻井社長とその意義を強調する。

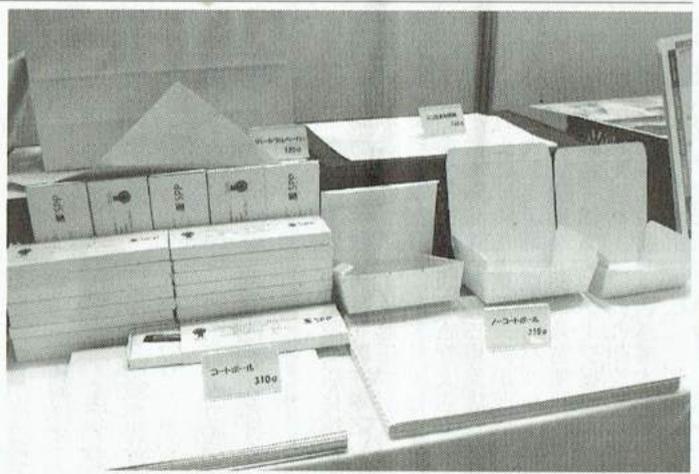
紙・板紙の製品化にあたっては、製紙メーカーの協力が不可欠となる。そこで取組みの意義に共感した新生紙パルプ商事が協業した。

花輪年秋東京本店パッケージ事業部開発部長は、「同様のことを検討していたので、今回の協業は本当に良いタイミングだった。(卵殻の)主成分の炭酸カルシウムは、紙の填料としても使用されている。ミクロン単位に粉砕しており、工程には影響は与えないものの、従来にないものを混入するので、(製紙メーカーの)ご理解は必要ではあるが、実績を積み普及が見込まれる」と話す。

基本的には紙、板紙問わず、含有できる。紙器用板紙や名刺用紙、パルプモールドなどのサンプルを作成し、本格的な採用に向けて提案を開始している。また、段ボール原紙での利用も今後進めていく予定だ。

櫻井社長は、「渋沢栄一ビジネス大賞を受賞したことで、認知して頂く機会も増えてきた。既にCO2削減、ゼロエミッションの実現、持続可能な消費と生産の実現などのSDGs観点から、賛

同し採用したいと申し出てくれた企業も複数ある。大きな目標を言えば、将来的に産廃となる卵殻をゼロにしたい」と意気込みを語ってくれた。



卵殻含有の板紙による紙器など。『白さが際立つ印象も』



日印産連 G.P.P交流会

大凸工場G.P.P初認定

日本印刷産業連合会(G.P.P)認定事務局は1月24日、日本印刷会館(東京都中央区)で「第41回G.P.P工場交流会」を行なった。当日は、環境対応で経営改善を目指す印刷会社を中心に多数が参加した。

同交流会は、環境対応に優れた印刷工場や資機材を認定するなど業界と社会的な理解や認知を図るもの。大日本印刷7工場、凸版印刷4工場、共同印刷五霞工場、大日印刷(株)東京営業所、兵田印刷(株)東京本社、本社工場、(株)東文社、(株)有功社本社工場、同河北工場、(有)ニジツジ本社・本社工場をG.P.P工場として認定し表彰した。

小野隆弘常務理事「写真には挨拶で、当初は印刷業界で「G.P.P認定にメリットがない」と言われ危機感を持ち、官公庁や大手クライアントに説明して回った歩みを述べ、その成果として「今日が印刷大手2社が参加する初めての認定式」と達成感を強調。近況では、各

パッケージ
 ディスプレイ
 セルプロモーター(S.P)の豊受
 www.toyouke.co.jp